災害から命を守るのは まず、あなた自身です

河川氾濫
内水氾濫
砂災害
ため池の決壊

【ハザードマップとは】

豊田市洪水ハザードマップは、大雨による被害から皆さんが避難する際の参考となる情報をまとめたものです。このマップには、矢作川をはじめとした市内の主要な河川が大雨により氾濫した場合に浸水が想定される区域や深さ、土砂災害の危険箇所、避難場所などを表示しています。

1 災害リスクを知ろう

まずは、自分の住んでいる地域の災害リスク（被害想定）を把握しましょう。

河川の氾濫によって予想される浸水の範囲と深さのほか、指定緊急避難場所などの情報が記載されています。想定最大規模降雨（1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨*）での被害想定になります。

我が家はここだね！
えっ、最大で3m以上の浸水なの！

1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨*：1,000年毎に1回発生する周期的な大雨ではなく、1年間という期間でみた場合、毎年1/1,000（0.1%）程度の確率で発生する規模の大雨のことです。発生率は低いですが、今年や来年に発生する可能性もあります。何より、ひとたび発生すると猛烈な大雨となるため、いざという時に命を守る行動をとれるように日頃から十分な備えが必要です。

詳しくはこちらのWebで・・・

洪水ハザードマップに関する様々な情報をまとめています。

- ●洪水ハザードマップデータ（PDF）
- ●とよたiマップ（防災マップ）*
- ●河川氾濫等の解析条件
- ●リアルタイム防災情報　など

とよたiマップ（防災マップ）*：Web上の地図に様々な災害リスクを重ねて表示できる地図情報サービスです。自由に拡大・縮小ができるため、自宅付近の災害リスクをより詳細に確認することができます。

2 避難先と避難経路を確認しよう

緊急時にあわてず無事に避難するには、事前の準備と確認が必要です。

避難行動について知ろう

水平避難（立退き避難）

浸水、家屋倒壊・流失、土砂災害の危険区域から離れ、安全な場所へ避難します。

離れた場所への移動のため、**避難に一定の時間が必要です。**事前に安全な避難経路や移動手段を確認したうえで、**余裕を持って避難を開始しましょう。**

垂直避難（上階等移動）

安全な場所へ水平避難する時間がない場合や逃げ遅れてしまった場合は、命を守るために、自宅の2階や近所の頑丈な建物のなるべく高い階など危険が及ばない場所に避難します。

あくまで命を守るための行動であり、**浸水が長時間継続した場合や危険区域内に孤立した場合の問題点も考えておきましょう。**豊田市には浸水が1週間続く箇所もあります。

屋内安全確保（在宅避難）

浸水、家屋倒壊・流失、土砂災害の危険がない場所または影響が少ない場所で、屋外に避難する方がかえって危険と判断される場合は、自宅などその場に留まり、安全を確保します。

電気・水道・ガスの停止に備えた準備や食料、水、常備薬などの用意を日頃からしておきましょう。

避難先を考えよう

- ・表面のマップにアイコ　先は「指定緊急避難場所」と「一時避難場所・一時車両退避場所」です。
- ・避難先はこの2つで　えて　下で紹介する施設等を参考に、自身や自宅の状況に応じて最適な避　う。

指定緊急避難場所

災害の危険から身を守るために緊急的な避難先として市が指定している施設です。風水害時に使用できない緊急避難場所もあります。

場所に停めた車中での避難です。プライバ　ー確保に有効ですが、エコノミークラス症候群対策など体調管理に注意が必要です。指定緊急避　場のほか、一時的に開設される一時避　時車両退避場所を活用しましょう。

自宅

屋外に避難する方がかえって危険な場合があるため、屋内で身の安全を確保する在宅避難も考えましょう。危険を感じたら自宅の2階へ垂直避難するなど身を守りましょう。

難場所

自治区が指定する避難場所です。緊急避難場所が開設されるまでの待機場所や住民の避難所など地域によって指定の有無や取扱いが異なります。

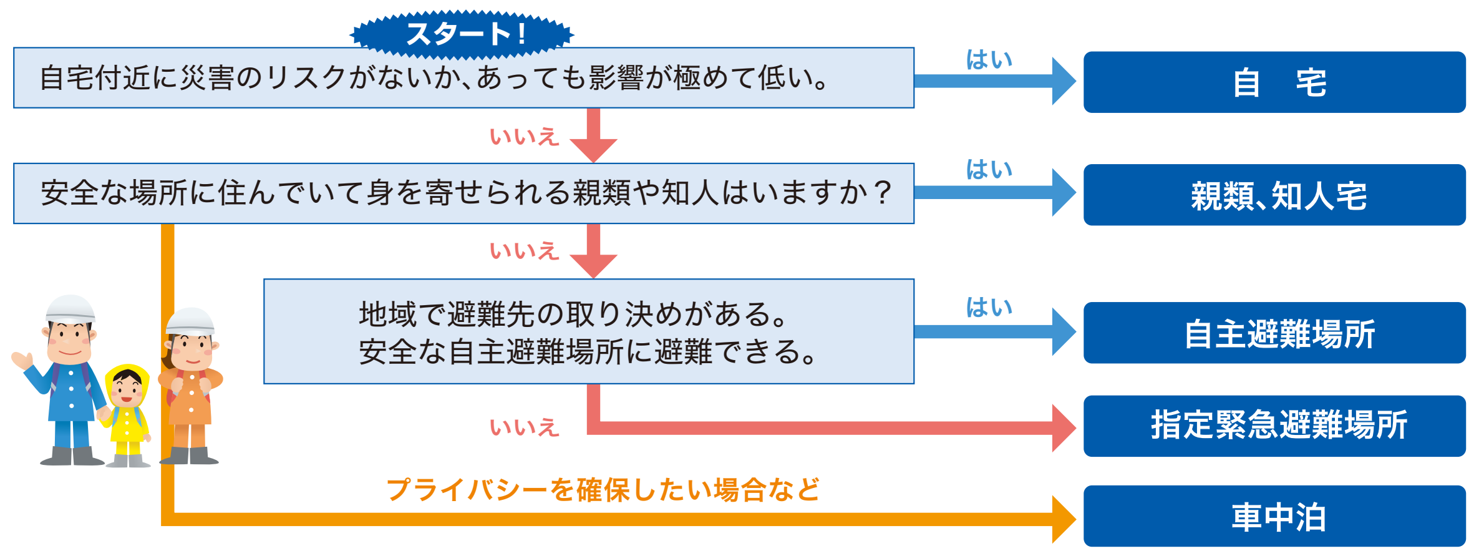
親類・知人宅

安全な場所に身を寄せられる親類や知人がいれば、避難先として活用を考えましょう。日頃から避難について相談しておきましょう。

緊急退避場所（最後に命を守る場所）

逃げ遅れた場合などに、命を守るため緊急的に安全を確保する場所です。すぐに移動できる少しでも安全な場所を、あらかじめ緊急退避場所として決めておきましょう。

避難先選定フローチャート（参考）



スタート！

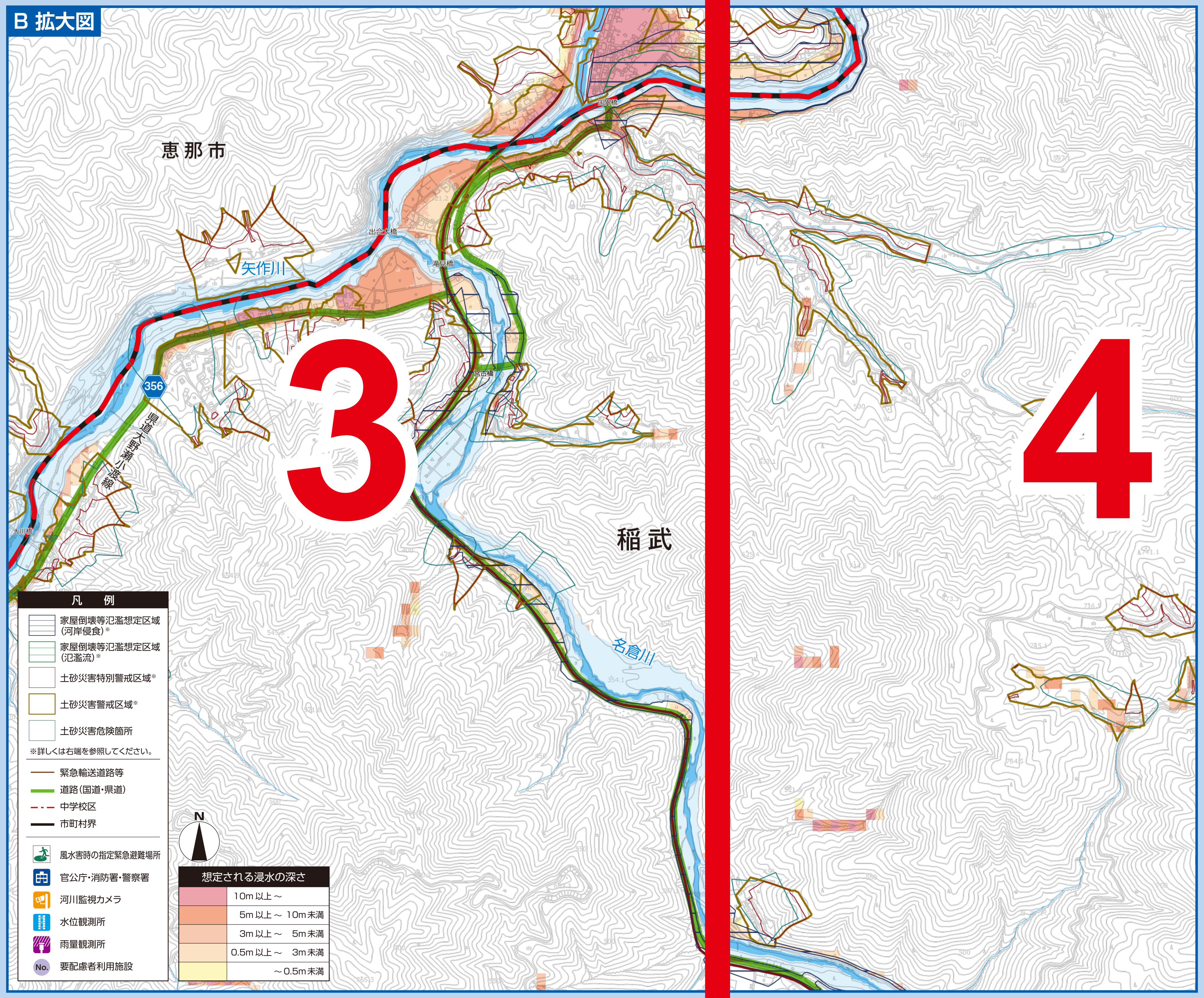
自宅付近に災害のリスクがないか、あっても影響が極めて低い。
→ はい → 自　宅
↓ いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親類や知人はいますか？
→ はい → 親類、知人宅
↓ いいえ

地域で避難先の取り決めがある。安全な自主避難場所に避難できる。
→ はい → 自主避難場所
→ いいえ → 指定緊急避難場所

プライバシーを確保したい場合など → 車中泊

B 拡大図



凡　例

▤	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）※
▤	家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）※
□	土砂災害特別警戒区域※
□	土砂災害警戒区域※
□	土砂災害危険箇所

※詳しくは右端を参照してください。

—	緊急輸送道路等
—	道路（国道・県道）
- ･ -	中学校区
—	市町村界
	風水害時の指定緊急避難場所
	官公庁・消防署・警察署
	河川監視カメラ
	水位観測所
	雨量観測所
No.	要配慮者利用施設

想定される浸水の深さ	
🟥	10m以上～
🟧	5m以上～ 10m未満
🟧	3m以上～ 5m未満
🟨	0.5m以上～ 3m未満
🟨	～0.5m未満

縮尺　1：10000

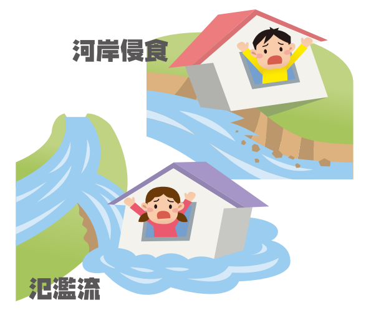
大雨が降った時に生じる災害リスク

河川氾濫による浸水

河川の水位が上昇し、堤防から水があふれたり、堤防が崩れたりすると、家屋、道路、農地などまちが水につかります。大雨の規模によっては、住宅の2階以上が水につかる箇所も出てきます。

家屋倒壊等氾濫想定区域

大規模な洪水が発生した場合、家屋が倒壊もしくは流失する危険がある区域です。水平避難が必要であり、垂直避難を避けるべき区域です。家屋が倒壊する原因は、堤防が決壊した場合に発生する激しい氾濫流や河川の流れによって護岸や堤防と共に侵食される河岸侵食などを想定しています。



内水氾濫による浸水

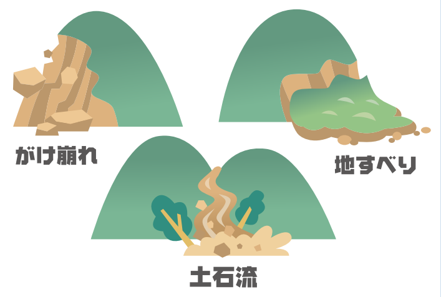
水路やマンホールから水があふれたり、低い土地では水が溜まったままになります。通常、まちに降った雨は、水路や側溝などを通って河川に排水されますが、大雨が降ると、河川水位が上がり、水路から河川に排水されにくくなります。河川の水位が下がらないと、浸水が長時間続く箇所も出てきます。

ため池の決壊

ため池は、利水目的（農業等に使用）以外に、大雨の時に水を一時 [illegible] ため池が決壊した場合は、ため池の下流側で浸水が発生する可能性があります。

土砂災害

大雨に伴って、山の斜面やがけが崩れる「がけ崩れ」、緩やかな斜面が地下水の影響などでゆっくりと崩れていく「地すべり」、崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れ、家屋、道路、農地が土砂で埋まる「土石流」などで発生する災害です。


がけ崩れ
地すべり
土石流

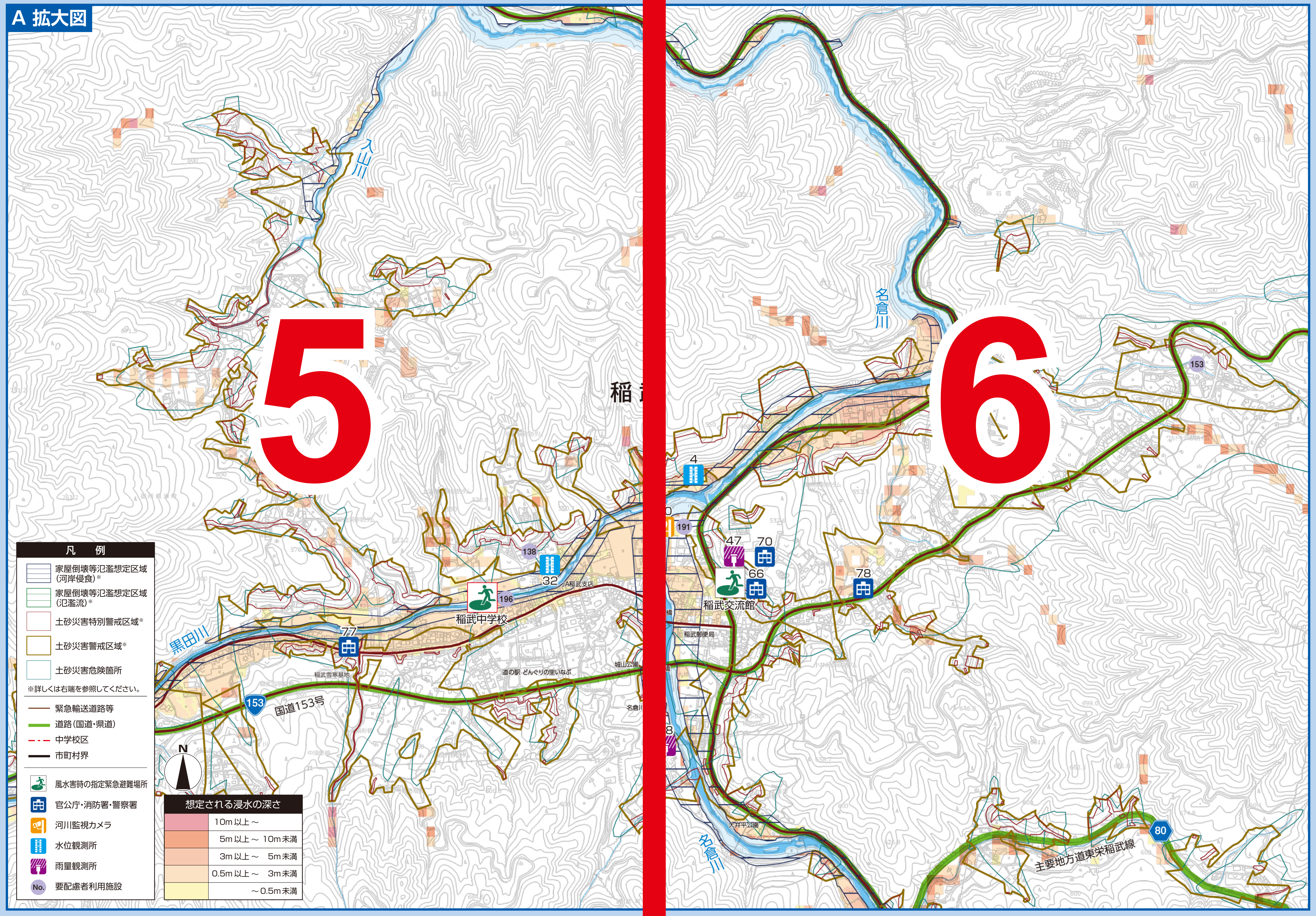
土砂災害警戒区域（通称イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合に、住民の生命や身体に、危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域（通称レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。

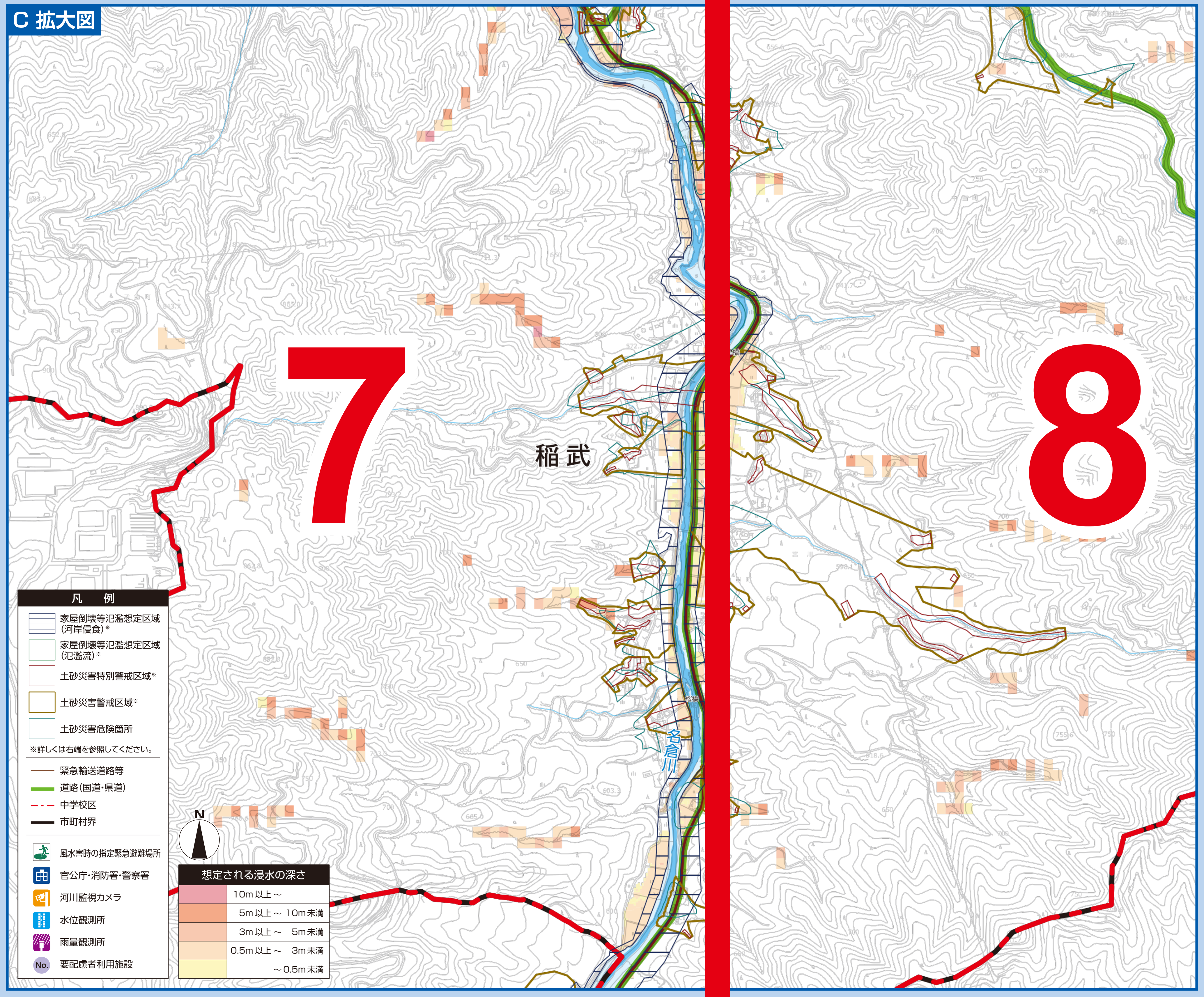
A 拡大図



凡　例
家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）※
家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）※
土砂災害特別警戒区域※
土砂災害警戒区域※
土砂災害危険箇所
※詳しくは右端を参照してください。
緊急輸送道路等
道路（国道・県道）
中学校区
市町村界
風水害時の指定緊急避難場所
官公庁・消防署・警察署
河川監視カメラ
水位観測所
雨量観測所
No. 要配慮者利用施設
想定される浸水の深さ
10m以上～
5m以上～ 10m未満
3m以上～ 5m未満
0.5m以上～ 3m未満
～0.5m未満

縮尺　1：10000

C 拡大図



凡　例
家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）※
家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）※
土砂災害特別警戒区域※
土砂災害警戒区域※
土砂災害危険箇所
※詳しくは右端を参照してください。
緊急輸送道路等
道路（国道・県道）
中学校区
市町村界
風水害時の指定緊急避難場所
官公庁・消防署・警察署
河川監視カメラ
水位観測所
雨量観測所
No. 要配慮者利用施設
想定される浸水の深さ
10m以上～
5m以上～ 10m未満
3m以上～ 5m未満
0.5m以上～ 3m未満
～0.5m未満

縮尺　1：10000